マルコによる福音書 8:14~17

「わたしたちは神さまのこども」

2025年6月8日(ペンテコステ主日)

藤沢北教会 長倉基

今日はペンテコステのお祝いの礼拝です。ペンテコステは、クリスマスとイースターともうひとつ、教会でとても大切なお祝いの日です。クリスマスはイエス様のこの世でのお誕生、イースターは十字架で死んでしまわれたイエス様の復活をお祝いする日です。そしてペンテコステは、イエス様が、復活したあと天に昇られて、そこからわたしたちといつもいっしょにいるために聖霊をおくってくださったお祝いの日です。聖霊は目には見えなけれど、わたしたちに神様の働きをしてくださいます。

聖霊は、まず教会をつくってくださいました。復活したイエス様が天に帰られたあと、弟子たちはみんなで集まっていた。イエス様がいなくなってしまったのでこれからどうしよう、と集まってお祈りをしていたのです。そこに、突然、風のような音と、炎のようなものが現れて、そこにいたお弟子さんたちは、神様の言葉を世界中のみんなに話すことができるようになりました。こうして教会ができました。なので、ペンテコステは教会の誕生日、ともいいます。それからずっと、聖霊は教会と、そして教会に集まるわたしたちといつも一緒にいて、イエス様のことを教えてくださいます。わたしたちのこの藤沢北教会も聖霊がたててくださいました。

教会を建てること以外にも聖霊の働きは数えきれないほどありますが、今日の聖書には「神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです」とあります。聖霊は私たちが神様の子供にしてくださるのです。わたしたちは、神様の子供なので、神様のことを「お父さん」と呼びます。「アツバ、父よ」、アツバは「お父さん」という意味です。「パパ」という感じに近いかもしれませんが。神様のことをお父さん、と呼びかけなさい、お父さん、と呼んでいいんだよ、と聖書はいいいます。

何よりも、イエス様ご自身が、天の神様のことをお父さん、と呼んでおられました。むかし、ユダヤの人たちにとっては、天におられる神様は、とってもちかよりがたい方でした。気安く話しかけるなんていうことはできなかったのです。みんなのお父さんはどうでしょうか？僕のおじいさんのお父さん、ひいひいおじいちゃんの写真があります。明治時代の人です。こんなにりっぱなひげをはやして、おすっとした顔で白黒写真にうつっています。その人の子供、つまりぼくのおじいさんは、この人におかって、多分お父さん、とかパパなんて呼んでなかったと思います。父上、とかお父様、と呼んで、敬語ではなしてたんだと思うんです。ユダヤの人たちにとっての神様もおなじでした。おとうさん、パパなんて呼ぶのはおそれおおくてもできません。そもそも神様は、お父さんじゃないんですから。ところがイエスさまは、わたしは神様の子供です。だから、お父さんと呼びます、とおっしゃいました。ユダヤの人たちはびっくりしてしまいました。あのお方のことを「お父さん」なんてなんてなれなれしくて失礼なんだ！と。けれども、神様は、ご自分の息子

であるイエス様に「お父さん」と呼ばれたらきっと嬉しかったに違いありません。

さて、そのイエス様は、わたしたちにも、神様のことをお父さんと呼びかけなさい、お父さんと呼んでいいんだよ、とおっしゃいます。それは、わたしたちがイエス様のことを信じて、聖霊が与えられて、神様の子供にされたからです。だからわたしたちはイエス様と同じように、神様のことをお父さんと呼ぶことができます。この後、みんなで主の祈りを祈ります。その始めのことばは「天にまします父なる神よ」です。「天にいらっしゃるお父さんの神様、」と神様にお父さん、と呼びかけてお祈りするのです。これはイエス様が教えてくださったことです。お弟子さんたちが、イエス様に、「イエス様、わたしたちにお祈りを教えて下さい」と頼んだことがありました。その時、イエス様は「こうお祈りしなさい」とお祈りの言葉を教えてくださったのです。それが主の祈りですけれど、こういう言葉です「天におられるわたしたちの父よ」、父よ、と神様に呼びかけてお祈りをするように、とイエス様はおっしゃいました。だからわたしたちは主の祈りでも、普段のお祈りでも「天のお父さん」と呼びかけていのります。そして、天におられるお父さんである神様は、わたしたちがアッバ、父よと呼びかけることを喜んでくださるに違いありません。

わたしたちが、神様をお父さんと呼ぶことができる、神様の子供だ、ということは、すべてを神様におまかせすることができる、ということです。お父さん、わたしを守ってください、お父さん、わたしを助けてください。お父さん、どうしたらいいのでしょうか。天の父である神様は、必ずわたしたちを守り、助け、導いてくださいます。なによりも、イエス様ご自身が、人生で一番困ったときに、お父さん、と呼んでお祈りなされたことが聖書に記されています。イエス様が、十字架につけられることを悟った夜、こうおいのりなされたのです。「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この盃をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」「お父さん！わたしは十字架にかからなくてはならないのですか！できれば十字架になどかかりたくありません。けれども、お父さん、あなたにすべてをお委ねします。わたしの願いではなく、お父さんの御心が行われますように」。イエス様は、苦しい時も、天のお父さんである神様を信じました。自分の思いよりも、神様の御心がすべての人のためであると、神様に、お父さんにすべてをおまかせしたのです。この後、イエス様は十字架につけられましたけれど、それはわたしたちが神様の子供とされるために必要なことでした。わたしたちは、イエス様と聖霊がいてくださらなければ、神様からどんどんはなれていってしまうからです。神様なんかいない、いなくても自分でなんでもできる、そう思います。神様に見つめていただいている安心を知らず、周りの人にどう思われるかを怖がってばかりいます。うまくいかないのは自己責任だと言われ、自分で自分を責めてしまいます。けれども、イエス様が十字架につけられ、けれども復活なされ、聖霊をくださった今は、わたしたちは、神様のことを「お父さん、アッバ、父よ」と信頼をもって呼ぶことができます。そのために、神様は、わたしたちを礼拝へと招いてくださいます。イ

イエスが、神さまを「アッバ、父よ」と呼ぶ聖霊を与えてくださったことをいつでも思い出し、そのイエスさまがいっしょにいることがわかるためにです。

長いあいだ信仰の歩みを続けてきたここにいる大人の人たちも、時に信仰が揺らぐことがあったかもしれません。しかし、そのたびごとに、礼拝において、聖霊が「あなたは神の子である」という確信を与え、支え、励ましてくださったはずで、それは、わたしたちの方が忘れてしまったとしても、聖霊は決してわたしたちを話さず、神の子とし続けてくださってきたからです。ここにいる教会で礼拝をするわたしたちに、また礼拝のことを知っていたけど今日はこれなかった人たちに、聖霊が働き、イエスがいつもいっしょにいてくださいます。

今日、こうしてこの藤沢北教会に集まって礼拝をしている私たち一人ひとは、聖霊によって「神の子」になるようにと招かれています。私たちは、天の神様を親しい「お父さん」「アッバ、父よ」と呼ぶことができます。これは、イエスが私たちに教えてくださった、何よりも温かい真実です。

この礼拝で受けた確かな恵みを胸に、明日からの日々を新しく始めましょう。あなたのそれぞれの歩みが、聖霊によって守られ、祝福されますように。そして、また「アッバ、父よ」と呼んでよいと言ってくださる神様のもとに帰ってきていっしょに礼拝をしましょう。わたしたちがまた礼拝で「アッバ、父よ」と呼ぶことを、神様が喜んでくださいます。